

経営比較分析表（令和5年度決算）

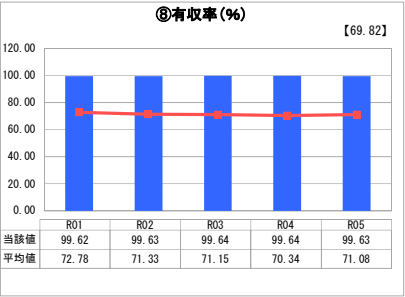
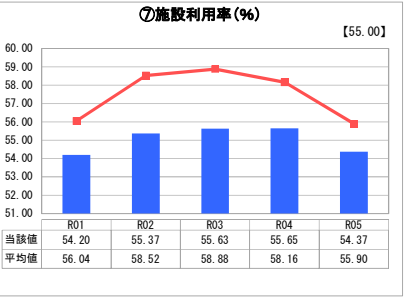
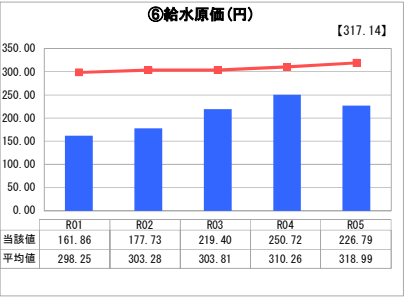
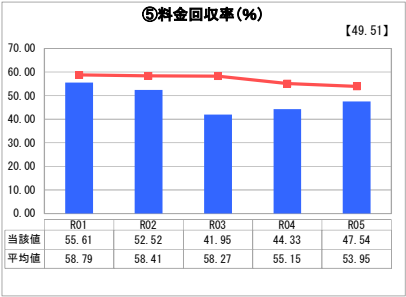
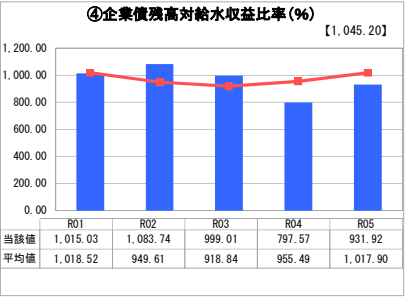
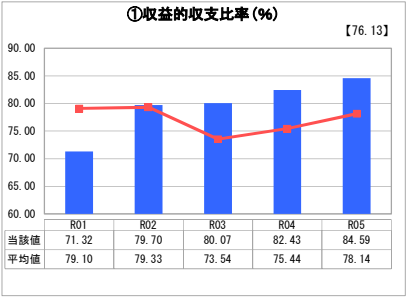
宮崎県 五ヶ瀬町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	該当数値なし	71.81	2,200	

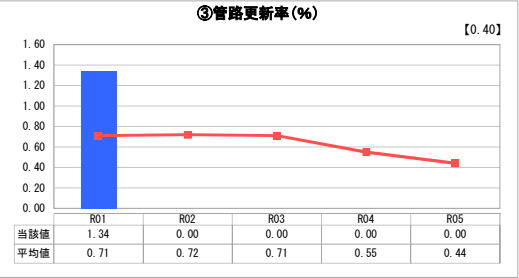
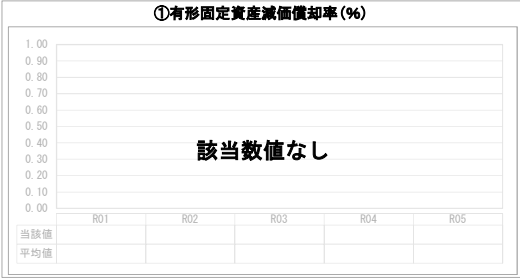
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
3,385	171.73	19.71
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,364	9.84	240.24

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町簡易水道事業は、一般会計・地方債の補填によって賄われている現状にある。

収益の収支比率については、前年度より増加しており、平均値を上回っている。これは、他会計繰入金の増加等による総収益の増加が要因である。

企業債残高対給水収益比率については、平均値を下回っているが、前年度より増加している。これは、災害に伴い、新規の公営企業災害復事業債の増加が要因である。

料金回収率については、前年度より増加しているが、依然として水準は低い。要因として、給水人口の減少による料金収入の減少、委託料等の増加による総費用の増加、地方債償還金の増加等によるものである。

給水原価については、前年度より減少しているが、依然平均値を下回っており、給水人口の減少、委託料等の増加による総費用の増加、地方債償還金の増加によるものである。

施設利用率については、前年度より減少している。

有収率については、前年度と同等。

本町の急峻な地形の当該地域特性を考慮すると、広域連携や施設の統廃合等はハードルが高く、困難であると考ええる。

また、経営改善にむけ、令和6年度に料金水準の見直しを行う予定である。

2. 老朽化の状況について

本町の管路は比較的新しく、最も古いもので敷設後20年程である。

今後も定期的に管路更新を実施していくこととなるが、長期的には管路の更新時期を迎える地区が重複してくることから、漏水の状況等を踏まえて、優先順位を決めるなど計画的な更新を行っている。

全体総括

令和3年度において、経営戦略となる五ヶ瀬町新水道ビジョンを策定。経営改善に向けて、水道料金の改定を検討。今後も、繰入金や地方債に頼らざるを得ない経営状況が続くことが予想されるため、経営戦略で策定した料金水準の引上げ等に加え、既設管路の更新についても計画的に実施していく必要があると考える。